

ひと

体感温度の低い街づくりを推進

ヒートアイランド対策の先導モデル
ポラスグループ・中央住宅社長 品川典久さん



埼玉県の「先導的ヒートアイランド対策住宅街モデル事業」の第1号認定事業に、ポラスグループ・中央住宅が開発した戸建て分譲地「風と緑のまち白岡」が選ばれ、このほど上田清司埼玉県知事から品川典久社長が認定証を授与された。

授与式後の会見で「第1号認定ということで素直にうれしい。しかし、住宅を供給する上ではCO2の排出は避けて通ることはできない。住宅会社としてヒートアイランド対策にこれ以上以上に積極的に取り組んでいかなければならない」と、改めて責任を強く感じていると語る。

品川社長はまた、「今回の販売を通して、お客様が環境対策について理解が深く、非常に高い関心を示してくれていることが分かった。価格は白岡エリアの平均相場よりやや高かったにもかかわらず、短期間のうちに21区画のうち半分以上に契約に至ったことから明らかに「環境面に力

を注いだ分譲地開発に手応えを感じている」と。

同グループは、埼玉県越谷市を拠点に首都圏で戸建て分譲地の開発を推進している。現地の状況に合わせて小規模区画の開発から、可能な限り環境対策を取り入れた住宅の供給とまちづくりにより、引き続き生かしていきたい」と抱負を語る。

ポラスグループでは、「街そのものがクールアイランドになるまちづくり」をコンセプトとする「パッシブ・アイランドデザインシステム」を構築し、「風と緑のまち白岡」で初採用。「体感温度でマイナス5度、空間温度でマイナス3度のヒートアイランド対策を実現した分譲地」と位置付けている。(市川佳之)

熱中症や暑さによる健康被害を